



旅するテディベア

連載 第3回 スペインの旅 The Dandelion Press Bear 外間 宏政

スペインの夏は暑い。乾いた大地に痛いくらい暑い太陽がささる。これで何度目のスペインだろうか？オランダのネーデルランド(低い土地)の運河の風車との出会いが、ラ・マンチャ地方の丘に立つ風車を再び訪ねてみたい気持ちにさせた。初めてスペインを旅して早十数年、8度目のイベリア半島は、「乾いた大地」そのまま、人影も無くただただ暑い夏の旅が始まった。

①ラ・マンチャ地方、カンポ・デ・クリプターナの丘に立つ風車。この風車を見てドン・キホーテは巨人だと思い、ドルネシア姫を救うため戦いを挑んだ。名匠セルバンテスの著書「ドン・キホーテ」でサンチョが言う、「あれは風車だよ!」。するとラ・マンチャの男ドン・キホーテは「お前は冒険というものがわかっていない」と言う。／②サンタ・テレサの街、アビラの城壁。重厚なアルカサル門から城

壁の中に入る。この頑強な石組みがイスラム教徒の侵入を防いだ。／③建物の曲り角に、こんなふうにはマリア様がいる。セマナ・サンタの日には、ビルヘン・コン・ニーニョの像を皆でかついで静かに街を行進する。／④アルカサル・デ・サンファン街、ドン・キホーテとサンチョ・パンサの像。きつと丘の上の風車を睨んでいるんだろう。／⑤プエルタ・デル・ソル、マドリッドの紋章(シンボル)「熊とマドローニョの木の実」。日差しが強くてビルとビルの間の日よけの布が張ってある。／⑥ラス・カンセラス。15世紀の旅籠を改築し、1Fはレストランになっている。伝統的なカステージャ料理が食べられる。／⑦骨付きの羊肉を窯で焼いたChuletillas de Cordero。肉のくさがりが絶妙に美味しい。スペインでは肉料理と、よく冷えたガス入りの水の組み合わせも結構いい。／⑧アルカサル・デ・サン・フォアンの駅の近くのレストラン(兼ホテル)で郷土料理を食べる。レス



トランの入口には、シェフと政治家や女優など、ここを訪れた有名人の写真が飾ってあった。どこの国でも同じようなことをするんだな、と日本を思い出した。／⑨プラサ・マヨール、マヨール広場でパレンボエム指揮のベートーベン・コンサートが開かれていた。市民がごった返していて警備がとても厳しかった。／⑩お祭りの準備で街は華やかに飾ってあるのに、シエスタ(昼寝の時間)でどこにも人がいない。／⑪オリーブオイルで揚げたパタタ(じゃがいも)にハモン(生ハム)と半熟卵がかかっている。この半熟さが、絶妙。半熟卵の美味しさを感じられる幸せは、日本人だけじゃなかったんだ。白ワインが最高!スペインの旅の醍醐味はバル巡りだ!オリーブにシェリー酒。塩茹でタコと茹でじゃがにはカーニャ(生ビール)。トルテージャは究極の卵料理、塩加減がビールにもワインにも良く合う。シードル(りんご酒)に鶏の丸焼き。それぞれにご自慢のタバスと美味しいお酒が待っている。バルのはしごはこよなく楽しい。スペインのハモンは世界一。最後にオルーホでばたんきゅう!／⑫シャンピニオンには爪楊枝がVの字に刺さっていて口に運ぶ。傘の中の美味しい汁をこぼさないように一口でバクツといただくこの喜びはこ

こにしかない、訪れる度に言いきってしまう。マヨール広場の裏手にあるメゾン・デル・シャンピニオンの近くには、ヘミングウェイの行きつけの店もある。／⑬街角の郵便ポスト、ライオンの口に旅の思い出を綴ったカードを投函。

今回はフィンランドとエストニアの旅です。エストニアはヘルシンキからフェリーで約1時間30分の距離。旧ソ連時代の廃墟の工場跡を抜けると、お伽の国タリンの旧市街地です。

プロフィール

The Dandelion Press Bear 外間宏政(ほかまひろまさ)

1996年ファーストベア制作

たんぽぽの綿毛に乗って世界中にテディベアの心が広がりますように。

ホームページアドレス ● <http://tdpb-hokama-h.com>

PRESENT

スペインのお土産。マドリード・ソフィア王妃芸術センターのオリジナルミュージアムグッズ、「携帯鉛筆削り」を1名様に。(詳しくはP.58のTeddy Topicsをご覧ください。)